

令和6年度学校運営連絡協議会実施報告書

1 組織

- (1) 東京都立大江戸高等学校 学校運営連絡協議会（定時制課程）
- (2) 事務局の構成 事務局（3名）事務長（副校長）、教務主任（主幹教諭）、総務主任（主任教諭）
- (3) 内部委員の構成（8名）校長、副校長（2名）、経営企画室長、教務主任（主幹教諭）、生活指導主任（主幹教諭）、進路指導主任（主幹教諭）、総務主任（主任教諭）
- (4) 協議委員の構成（9名）
学識経験者（大学教授）、江東区教育委員会、深川警察署生活安全課、千石2・3丁目町会会長、江東区立川南小学校長、江東区立深川第四中学校長、都立江東特別支援学校長、江東区教育センターブリッジスクール指導員、本校教育振興会役員 ※教育振興会は、PTAに近い機能のある会

2 令和6年度学校運営連絡協議会の概要

- (1) 学校運営連絡協議会（第1～3回）の開催日時、出席者、内容

第1回 令和6年7月5日（金）開催 内部委員7名、協議委員7名

協議委員・評価委員委嘱状交付、委員紹介

大江戸高等学校グランドデザイン、令和5年度学校経営報告、令和6年度学校経営計画

大江戸高等学校管理運営規定、学校運営連絡協議会設置要綱、令和5年度学運協実施報告

本校の現状と課題についての説明及び意見交換

学校サポートチーム会議

いじめ防止基本方針

第2回 令和6年11月22日（金）開催 内部委員7名、協議委員8名

チャレンジサポートプランについて

チャレンジサポートプランについて（東京都教育委員会ホームページより）

○東京都教育委員会は「東京都教育ビジョン（第5次）」において「誰一人取り残さないきめ細かな教育の充実」を施策の柱の一つに設定するとともに、令和6年3月に策定した「都立高校の魅力向上に向けた実行プログラム＜令和6年更新版＞」において具体的な施策を取りまとめるなど、様々な困難を抱える生徒に対する支援にも取り組んできました。

○現在、都立高校における困難を抱える生徒は増加傾向にあり、生徒のニーズも多様化しています。また、困難を抱える生徒が多く在籍する一部の学校では受入環境の改善が必要なことに加え、困難を抱える生徒に対する支援策の実施に当たっては、関係者により様々な側面から連携して取り組む必要があります。

○このような状況を踏まえ、困難を抱える生徒に対する支援の取組を総合的に進め、都立高校における多様な生徒たちの学びや成長を支える学習・教育環境の充実を図ることを目的に「都立高校におけるチャレンジサポートプラン」を策定します。

チャレンジサポートプランの中の「多様な生徒の受入環境の充実」の一つとして、「不登校経験のある生徒等にとって適切な環境を用意しているチャレンジスクール等を新設・増学級」があり、本校が令和8年度から1学級増学級となることについて説明した。

令和6年度学校評価アンケートについて

本校の現状と課題についての説明及び意見交換

学校サポートチーム会議

第3回 令和7年2月14日（金） 開催 内部委員7名、協議委員7名

令和6年度学校評価アンケート報告

本校の現状と課題についての説明及び意見交換

学校サポートチーム会議

(2) 評価委員会の開催日時、出席者、内容

第1回 令和6年11月22日（金） 内部委員3名、評価委員2名

学校評価の基本方針の確認、今年度の学校評価の観点・項目・内容・実施時期の検討

第2回 令和7年2月14日（金） 内部委員3名、評価委員1名

アンケート集計結果の分析・考察・課題の整理、評価報告書（原案）の確認

3 学校運営連絡協議会による学校評価（学校評価報告）

(1) 学校評価の観点 「学校への理解」「学校の意欲」「学校の実践」の観点で実施する。

(2) アンケート調査の実施時期・対象・規模

調査実施期間：令和6年11月22日から令和7年1月10日まで

| 対象 | 令和5年度 | 令和6年度 |
|-----------|--------|------------|
| 生徒 | 紙：424名 | Forms：116名 |
| 保護者 | 紙：153名 | Forms：105名 |
| 教職員 | 紙：38名 | Forms：16名 |
| 学校運営協議会委員 | 紙：6名 | 紙：7名 |
| 地域 | 紙：24名 | 紙：25名 |

・Formsでの調査については、本年度初めて実施した。想像以上に回収率が上がらなかった。このことについて学校連絡協議委員の皆様にご意見を伺ったところ、かなりの回数の周知を図る必要があることが分かった。次年度は、回収率を大幅に上げたい。

(3) 主な評価項目

・学校運営、学習指導、生活指導、進路指導、特別活動・部活動、健康・安全、施設・設備等

(4) 評価結果の概要

・進路指導、生活指導、体験活動、学校行事については、多くの生徒が肯定的に受け止めている。
・保護者や地域住民は全体的には肯定意見の方が多く、「情報がなくわからない」と回答している項目も多く、大江戸高校での取り組みの周知が課題となっている。
・学校運営連絡協議委員からは概ね肯定的な意見であった。

(5) 評価結果の分析・考察

・地域だけでなく保護者にも「情報がなく分からない。」という回答が多いことに着目し、今までの紙ベース中心の情報発信だけでは不十分であることが分かった。情報発信の強化が必須である。
・同じ項目でも、生徒、保護者、教職員、学校運営協議会委員、地域の皆さんで評価の分かれるものは大きな課題があると考え、その原因を探ることが重要である。

4 学校運営連絡協議会の成果と課題

学校の教育課題に対して多面的な助言をいただき指導の改善に生かすことができた。

特に、昨年度の御意見を踏まえた地域との防災訓練は効果的に実施することができ、生徒も達成感を感じることができた。

一方で学校からの地域への情報が十分でないこともあり、学校の行事や取り組みの状況が伝わっていないことも分かってきた。今後は、情報発信も強化していきたい。